緑の相談所だより

－第４４号－

［ 冬～初春号　１９９７．２．１発行　　編集：旭川市緑の相談所 ］

講習会のお知らせ

家庭菜園　苗つくり・室内での栽培

日時　２月９日（日）午後１～３時

講師　旭川市緑の相談所
相談員　佐野元雄

洋らん・春～夏の管理

日時　２月１６日（日）午後１～３時

講師　旭川洋らん会
会長　笠原幸三氏

果樹の管理

剪定・防除

日時　３月９日（日）午後１～３時

バラのつくり方

植え方・管理

日時　３月２３日（日）午後１～３時

講師　旭川市緑の相談所　相談員　佐野　元雄

■いずれも定員は５０名。参加料は無料です。■

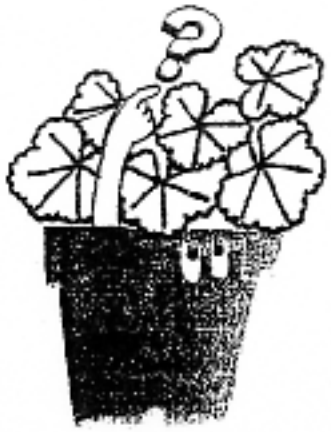
春立つ（立春）

一口メモ

暦の上では年のはじめ。この日から春になります。
中国から伝わった二十四節気といわれるこの暦は季節の変化がわかるように一年が立春からはじまる二十四の名称で示されています。

１月…小寒・大寒	２月…立春・雨水	３月…啓蟄・春分
４月…清明・穀雨	５月…立夏・小満	６月…芒種・夏至
７月…小暑・大暑	８月…立秋・処暑	９月…白露・秋分
１０月…寒露・霜降	１１月…立冬・小雪	１２月…大雪・冬至

お宅の鉢花はだいじょうぶですか？



花がほとんどつかない

原因	害虫	日光不足	水が多すぎる	肥料不足	肥料(窒素)過多
多発時期	一年を通じて	一年を通じて	夏	一年を通じて	春～秋
対策	セントポーリアには中心の芽に肉眼で見えないダニがつき、花が咲かないことがある。十日に一度、中心付近の葉にケルセン乳剤二千倍液を散布する。	日当たりを好むものを日陰に長く置いたり室内へ持ち込むと、花つきが悪くなる。出来るだけ日に当ててやることが大切。	水が多くて肥料が十分だと肥料過多と同じことになる。花木によっては夏に水分が多すぎると花芽のつきが悪くなるので、水をひかえることがコツ。	開花期の長いものは途中で肥料が切れると花つきが悪くなる。薄いものを回数多くやる。	配合肥料でも窒素の配合が多いので、葉が大きくなりすぎて花つきが悪くなる。リン酸、カリの多い肥料を使うようにする。

春がくる

大寒が過ぎて立春。２月、３月は暦の上では春。しかし、ここ北国ではまだまだ冬なのだが油断していると、春だ！　を実感させられるから用心が大切。日長がぐんぐん伸びて太陽とつきあう時間が長くなる。当然、陽射しが強くなる。夏と違って地面を雪が覆っているから、反射光線が意外と強い。陽焼けにはくれぐれもご用心。いや、あなたのお肌じゃございません。窓辺に置かれた鉢物、特に冬場日光不足で過ごした観葉植物などのことです。温室をお持ちの恵まれた方々も、この時期からは日除けの準備怠りなく。長日植物と呼ばれる春に花の咲く仲間は花芽のもとをつくっています。この時期の異常高温、多肥などはブラインド（花芽が死んでしまうこと）を招くことがあるので注意が必要。冬の間に我慢していた鉢物の植え替えなどはもうしばらくの辛抱。

雪が積もっているからといって外はまだ用なしと思ったら大間違い。去年随分と悩んだ庭木や果樹の剪定適期ですぞ。あまり早いと切り傷に寒さが滲みて、切られの与三郎の心境を可愛い果樹や庭木に味あわせることになるから、中旬以降が良いかと。
剪定には休眠期の剪定と新しい枝葉が出た後行う成長期の剪定があるが、大きな枝を切り落とす強剪定ができるのは今の時期に行う休眠期剪定です。いくら休眠期であると言っても切られた傷跡は早く治らないと枝枯れの原因になるので、直径１ｃｍ以上の切り口は良く切れるナイフなどで削りなおし癒合剤を塗っておくことですね。三月に入ったら病気の予防と害虫の防除を兼ねて、石灰硫黄合剤の撒布、あるいは塗布をお忘れ無く。晴天が続き、陽射しが強くなると日中は庭の表面の雪が融け夜は凍り付くことが繰り返されて、次第に表面が堅くなります。この堅い氷のような雪が庭木の枝を圧迫しながら徐々に沈んでいきます。やがて小さな庭木が押しつぶされたり、枝を裂かれたりすることになります。時折木の周りの雪を砕いてやりましょう。厳重に冬囲いされた庭木では、特にツツジやシャクナゲでは三月ともなると蒸れの被害がでることがありますので、天気の良い日中は冬囲いのムシロなどをすかしてやるようにすることが必要。

雪が解けたら花壇を楽しもうとする方はこの時期が苗育ての大切なとき。花壇の設計に応じて育苗のための作業がびっしりとつまり、播いた種が芽を出す頃から気の抜けない日々の連続ですが、これも好きな事とて仕方がありませんな。
まず苗七分です。くれぐれもモヤシをつくらないこと。種は薄撒き早めの移植、発芽温度をきちんと守り、さの良い苗、良い苗・・・をつくることが先ずは肝要。種類の違う種を同一の鉢に播く場合は、発芽温度の差にご注意を。通常は恒温状態（一日中変化のない温度）で発芽が揃うものですが、発芽最適温度に差のあるものは同じ鉢には播かないことです。１・２年草の場合、最適温度では一週間位で発芽するのが普通ですから５日目位から様子を見ながら注意して、鉢を覆った紙や磨りガラスなどをずらしたり、透かしたりするようにすると良いでしょう。また、多くの種類では本葉一枚の頃に２ｃｍ間隔に植え広げ（移植）をした後、次第に強い光に馴らしていく。葉が触れ合うくらいになったらまた移植。移植の回数が多いほど根の多いがっちりとした苗が出来、花壇に植え出した後の管理が楽になるばかりでなく、花壇の保ちが良くなるものです。害虫の発生にも気をつけなければ・・・雪があるのにもうこの始末。土が顔を出したら一体どうなることか。間もなく戦闘状態になりますぞ。

土と根のはなし

至極当たり前の事ですが、花や木にとって土は体を支え、根から土中に貯えられた養分の内から必要な成分を吸い上げ、丈夫な体を作り花を咲かせ種子を撒き散らす等、生の営みを行なう上で最も大切な要件です。

土が不適当であれば先ず根が傷み、上部の茎や葉に水も養分も送れず、次第に植物は弱り、ついには枯死に至ります。又土が良ければ上部が何かの被害で枯れこんでも根を保護し生き残り、新しく再生する例も多くあります。

植物の中には、水草や洋ラン類のように土を必要としない仲間も沢山おりますが、それでも体を支えるものは必要ですし、養分を補給するための根も有ります。

きれいな花を咲かせ、沢山の美味しい実を楽しむためには温度、光線、水やり、肥料も大事ですが、先ず土と根の事を考えてみましょう。

植物が元気良く成長する土を作ることに上手な花作りのコツがあります。

原産地を知る

この植物はどんな所で育っていたか、気候条件と同じように土の事も考えてみます。水辺や湿地で育ったものか、砂漠のような乾燥地が原産のものか、腐葉土たっぷりの肥沃なところが好きなのか、その植物の先祖が生き残った場所を知ることも一興ですし、おおいに参考になります。

土と空気

根も空気（酸素）が無ければ窒息してしまいます。土の中に常に新鮮な空気が含まれている事が理想です、植物の種類によって多い少ないの好みはありますが、いずれも空気のない所では根が死んでしまいます。根腐れは根の窒息が原因です。

土と水

植物の体の殆どは水です。この水は全部根から吸い上げます。葉や茎に上った水は少しずつ蒸散しその分また根から補給されます。この時水に溶けた養分等も同時に吸い上げます。要するに肥料も水が無ければ植物に利用されないと言うことです。この水を適量常に保持できるような土を作ることが難しいところです。

土と堆肥

土に空気と水を保たせるのは枯葉など植物体の廃棄物の働きが最も有効です。土に混じった適度に分解した腐葉土、堆肥分は土の中に隙間を作り空気を溜め、同じように水も保ち植物に供給します。又堆肥分自体も植物に有害な成分を閉じこめたり、施し過ぎた肥料分を一時保管したり等有用な働きをします。良い土を作るためには堆肥分が不可欠です。